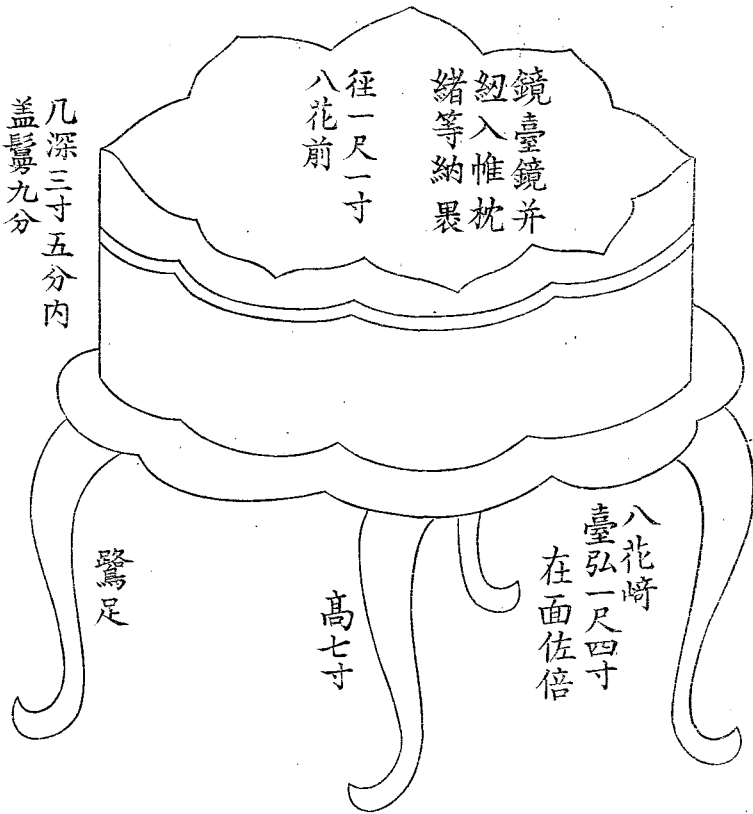


鏡二面、各徑盛轆轡管、以錦黏表、以緋帛黏裏、○下

〔內宮長曆送官符〕出坐料御裝束略○中 御鏡二面、付組緒、納轆轡管、在錦折立、

〔類聚雜要抄〕四、鏡篋、鏡臺、鏡納料



八花崎
臺弘一尺四寸
在面佐倍

鏡臺鏡并
紐入帷枕
緒等納裏
徑一尺一寸
八花前

高七寸

鷺足

几深三寸五分内
蓋髣九分

但雖爲三庇具、用時ハ北庇之二階南邊立之、長承三年四月十九日戊戌、皇后宮立后
ニ被用之、前太政大臣姫君院女御、長元十年三月一日、高陽院四條宮立后例云々、
〔後撰和歌集〕離別驛旅とをき國にまかりける人に、たびのぐつかはしける、かゝみのはこのうら

にかきつけてつかはしける、

おほくぼののりよし

料木三寸半板七尺五寸
木道單功八十疋喰料
蒔繪金廿七兩一分
漆一升一合
磨料六百疋
裏塗三疋
口白鑄一斤九兩
置料廿五疋
螺鈿料千二百九十疋
同堀入料百疋
堺料七十疋
入玉料百廿疋